【短歌】

岡崎 桜雲 選

美良布駅に木製ベンチ寄贈せる香北中の生徒は頼もしきかな　小松 隆之
瑞宝双光章受章の友は吾等の誇り二十七年卒同期の桜　公文多賀子
アンパンマン描かれし汽車に吾も乗り花をめぐりて遠くへ行きたし　門田 喜美
見舞いくれし友より頂く一輪の菜の花うれし春の香立たせ　鍵山 春子
故郷に父母の姿はなけれども吾が幼な時の住家のこれり　西尾 玉喜
ホスピスに二女を見舞ひし父既に二度の逆縁乗り越え来たる　森本 幸美
夕暮れに学童の吹くハーモニカ桜並木にぼんぼり灯り　山崎 貴子
カレンダーのメモもうっかり忘れおり老いの常習後の祭りと　高野 和一
三月の畑を打てば青蛙掘り起こしたり慌て埋めおく　小松 敏子
八十九才仕事姿は凛として妻の吾さえ近寄り難し　小原 子川
払われし宮居の杉の高枝に御垣の注連を歌いし日あり　岡田美代子
はじめての携帯電話握りしめやっと時代の波に乗れたよ　坂本美智子
花の下急ぎゆき来の日の遥か幹に凭れて友を偲びぬ　森 晶子
水ぎわたち烏ヶ森へ一線を画し白鷺夕暮れを去る　韮生 灯
早春にスカイツリーを仰ぎ見る君の未来に幸せあれよ　谷内 務
小鳥来ず南天の実の鮮やかに自然の異変に不気味さ覚ゆ　公文 千恵
白壁と格子窓つづく町並みに飾られし雛の面輪やさしき　吉本 悦子
作小屋に農具休ませ幾年か杖をつき来て小屋に佇む　出原 久子
山襞を川霧ふかく立ち昇り木の芽おこしの音もなく降る　公文 正子
日脚のび木々の芽ぶきのほのかなる香り漂ふ雨あがりの午後　林田 幸子
原発の町より来しといふ老女おりおり窓に遠くを見てゐる　竹村 咲子
硬ばりて身の不具合を訴ふれど白衣の医師の顔は穏やか　武内 弘子
他愛なきうわさ話に耳を貸し口も出したり春めきし辻に　大石 綏子
指さして出かける前に確認すストーブはよしガス電気よし　門田 明子
人知れず葉数をふやして庭隅にクリスマスローズはつぼみを抱く　小松 禮子
春はもうそこまでなのか枝々の土佐水木の蕾あふれんばかり　高橋 章
辻つじに消火栓とホースあり遺産守れる白川の郷　古川 安子
ころころと言葉操るこの人に疚しさの影みたることなし　佐竹 玲子
去年今年人とのわかれ幾度かこころ追はるる一年なりき　小松もとみ
みかん種庭にまけども一羽だに姿を見せず不思議でならぬ　古谷 由美
五時過ぎし工科大の池薄暗くみちびく明かりを渡る道寒し　伊藤 清子
温かい汁炊き置かむと起上る夫逝きて三回忌も近しといふに　大岸由起子
龍河洞開洞八十周年に参加してイブの夜は記念すべき日　森本眞理子
遺骨抱く母と我は馬車にのる遺されし人の痛み解からず　宮地 亀好
リハビリへ移りし友を浮かべつつ廊下を一人杖に歩めり　林 敏子
古里はダム湖となりぬ幻の水車が廻るかたりことりと　大石紗智子
赤き実のつきたる小枝風にゆれ小鳥こぬまゝ二月も終るか　竹村 稔美
わが胸に消えぬ想いの二つ三つ闇夜に遠く恋猫の鳴く　西内 道彦
小鳥たちどこに行ったかピタリと来ない南天千両真赤万両　横田直加子
じい・ばあに二才の兄は預けられ妹気づかいがんばれ「かがり」と　楮佐古きよ
どうしても歌はなかなか詠めないよいや頑ばろうアララギ届けば　山﨑 緑
この谷に石菖は今も青々と繁れり魚のかげはあらねど　佐々木真里
いま問ひて亦とひかへす妻と居て如何にすごさむ吾がこれからを　小野川恵仁
もう十時だ未だ十時よと争ひぬ春の夜更けて一日終らむ　都築 初代
楠瀬先生育み来ませし歌の園花咲き競へ色とりどりに　岡崎 桜雲

※掲載を希望される方は、掲載月の前月1日までに、総務課内広報委員会事務局へご応募ください。

【投稿先】香美市役所総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782－8501（住所記載不要）　FAX 53－5958

吉井勇記念館だより

第9回吉井勇顕彰短歌大会結果

漂泊の歌人・吉井勇の功績を顕彰するために開催しております吉井勇顕彰短歌大会も、今回で9回目を迎えることとなり、全国各地から一般115名・223首、学生769名・１２４０首の投稿をいただきました。投稿してくださいました方々に心よりお礼を申し上げます。

吉井勇記念館開館10周年記念展示

吉井勇記念館は、今年度に開館10周年を迎えるにあたり、勇の再起の地である猪野々にスポットを当てた展示を行います。地元猪野々の方にもご協力をいただき、当時の勇の作品の展示や隠棲生活の様子の解説などを通して、彼の「人生再生の日々」をたどり、改めて吉井勇の魅力に迫ります。

【期間】5月30日（水）～8月6日（月）

【問い合わせ先】吉井勇記念館☎58・２２２０

第９回吉井勇顕彰短歌大会 受賞作品

（３月１０日・猪野々集会所）

◆一般の部

吉井勇大賞
ドングリの落ちて水切る小さきおとすべての音の卵のやうに　山口県宇部市　藤井重行

吉井勇賞
背の曲る母のかたへにルビのごと添ひてゆつくりいつもの径を　高知市　山下由美子

佳作
棉花摘む大平原は人まばらこれぞ大陸感嘆しきり　香川県さぬき市　井原定雄
最後なる夜勤の訪床異常なく三十年の重荷を降ろす　兵庫県芦屋市　加島清子
おしっこの生温かさに「ああ生きてた」と地震津波を語りし媼　埼玉県狭山市　松岡初枝

伊藤一彦賞
いやいやと無理いう子ども海風にさからうオリーヴの揺れざまに似る　香川県高松市　多田達代

玉井清弘賞
象のうんちモップでさっとふきとられサーカス舞台に幕はなかりき　岩手県花巻市　千田正平

楠瀬兵五郎賞
工房にガラス吹きゐる若者の一途なる眼の中の火の色　愛媛県愛南町　前田 充

◆学生の部

吉井勇大賞
もりの木はいつもザワザワゆれているいつも力づよくザワザワゆれる　香北中学校1年　水田大雅

吉井勇賞
月光が足もと照らす帰り道顔をあげれば明るい我が家　岡豊高等学校2年　平田百恵

佳作
朝顔の一つ一つが顔をだして、私の顔を見ているよ　山田小学校6年　小南舞乃
人ごみにまぎれて潜む影一つ僕の心に忍びよる影　大栃中学校3年　鎌土 翼
悲しみは隠しきれるが喜びは隠しきれないほどあふれだす　山口県立防府商業高等学校1年　山本彩貴

伊藤一彦賞
飼いネコがいつのまにやら太っててかわいさなくしとても不気味だ　鏡野中学校3年　河口麗宮子

玉井清弘賞
木陰には春の光の矢が走るベビーカーで子供が寝ている　長崎県立諫早農業高等学校1年　坂口 起

楠瀬兵五郎賞
山で取ったゆずをかごに入れたときすごく重くて一人で持てず　楠目小学校6年　田中辰朗